



事業実績報告書

様式 2
(2019年度)

講座番号	C-24	講座名	聞いて役立つ環境と不動産の話
記載日	2019/11/12	団体名・企業名	公益社団法人愛知県不動産鑑定士協会
〈講座全体の概要〉(300字程度)			
<p>成人した市民の方々を対象とし、環境や不動産にまつわる様々な講義を行いました。</p> <p>各5回の講師は全て、当協会に所属する不動産鑑定士で、毎回ごとに異なる分野、時事的な題材を取り上げています。</p> <p>一見、親しみにくい題材をテーマとした講義でも、レジュメを配布し、パワーポイントを使用するなど、一般の方にも分かりやすいものとなるように努めています。</p> <p>今年度の参加者は平均して23名程度で、アンケートには「面白かった」等うれしいお声がありました。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			
10月2日に開催された「老後2,000万円問題は不動産で解決できるか？」での講義の様子		10月9日に開催された「不動産の见えない部分を見よう！」での講義の様子	
〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)			
<p>新聞掲載や市内図書館及び生涯学習センターへのチラシ配架、なごや環境大学企画者間のメーリングリストやピックアップ記事として原稿を掲載していただくなど、多くの方の目にとまるよう広報活動に注力しました。その甲斐あってか、予想をはるかに超える方にお申し込みいただくことができました。</p> <p>しかし、定員以上の方にご参加いただいたため、机のない椅子席にご案内することも多くありました。そのため「会場が狭い」「講師の声が聞きとりづらい」などのご指摘をいただきましたので、来年度以降の企画運営に役立てて参りたいと存じます。</p>			
〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3～5点、計350字程度)			
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい知識が入手できた ・たまたま近隣でもめていたことがよく分かった ・リズムよく的確で話がよく分かった ・地図を見るのが好きなので、大変おもしろかった ・もう少し詳しい話も聞きたかった 			

●団体紹介

団体所在地	〒460-0008 名古屋市中区栄四丁目3番26号 昭和ビル3階		
連絡担当者	市民講座プロジェクトチーム事務局 鈴木	ウェブサイト	https://www.aichi-kanteishi.or.jp
TEL	052-241-6636	FAX	052-241-6680
E-mail	info@aichi-kanteishi.or.jp	携帯電話	
〈団体・企業の簡単な紹介・PR〉(150文字程度)			
<p>私たちは不動産鑑定士という資格者がつくる団体です。</p> <p>不動産の鑑定評価を通じて、公平・公正な不動産価格の形成を進めています。</p> <p>また、不動産と価値に関して市民理解を進める研修会や相談会なども随時行っています。</p>			

●講座開催情報

第一回	講座名	老後2,000万円問題は不動産で解決できるか？	開催日	2019/10/2	水
	講師名	田井 能久	参加人数	24	名
	内容	「老後2,000万円問題」について学び、これからの社会を豊かで安心にリタイアメントライフを過ごすための不動産との付き合い方を考えます。			
第二回	講座名	不動産の见えない部分を見よう！	開催日	2019/10/9	水
	講師名	山口 貴徳	参加人数	22	名
	内容	不動産の権利は地表部分だけでなく上空や地下にも及びます。土壌汚染や埋蔵文化財、リニア新幹線や地下鉄など地表からは見えない地下部分のお話です。			
第三回	講座名	地図から読みとく周辺環境の変化	開催日	2019/10/16	水
	講師名	加藤 慎太郎	参加人数	22	名
	内容	地図は周辺環境の変化を端的に表してくれます。実際のゼンリン地図、グーグルマップ等を使って不動産鑑定士の思考回路を解説します。			
第四回	講座名	不動産を取り巻く環境と不動産の価格への影響	開催日	2019/10/23	水
	講師名	古田 尚也	参加人数	27	名
	内容	不動産の価格は、経済情勢だけに影響されるものではありません。災害リスクや生活様式等、自然環境や社会環境の変化について考えてみましょう。			
第五回	講座名	鑑定士の・建物鑑賞術（主に住宅編）	開催日	2019/10/30	水
	講師名	西村 研二	参加人数	21	名
	内容	少しの専門知識で、普通の建物から作り手の知恵や工夫等が見えてきます。経済性の視点を入れつつ建物を慈しみ、感動するためのワザをご紹介します。			